

学びの広場 2016

西平畑公園「自然館・子どもの館」の紹介

足柄平野・箱根外輪山・富士山が一望できる西平畑公園。この恵まれた素晴らしい環境の中で、さまざまな学びが展開されています。自然館の渡辺館長さん、子どもの館代表の木口さんに活動の様子を伺いました。

【問い合わせ】教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

自然館はふしぎなこと・感動・発見がいっぱい

自然館は、松田山の樹木や草花・野鳥・昆虫などに囲まれ、自然の宝庫です。館の中には、普段あまり目にしない生き物や自然の生態系が展示されていて、楽しいものがいっぱいです。屋外では野鳥の澄んだ声が響きわたり、大きな羽を広げたオニヤンマが目を通り過ぎるなど、感動の連続です。

活動内容は館長を含め6人のメンバーが、四季に合わせた自然講座や、自然の面白さや感動が実感できる探検を計画しています。今年、新たな企画『生きものが育つ森を造ろう』と名付けた大プロジェクトが発足しました。

「カブトムシの会」プロジェクト

「カブトムシを捕って遊びたい、育てたい」という子どもたちの夢



森づくりをする「カブトムシの会」植樹

●野鳥の観察(自然講座) 自然館の樹木園で開催します。キビタキやウグイスの声、時にはメジロやヤマガラ、サンコウチョ



ドクダミの葉を天ぷらに料理

●人気の講座「野草を食べよう」

煮たり揚げたり茹でたり 雑草って食べられるの！ 参加者が楽しみにしている講座の一つです。ドクダミの天ぷらやたんぽぽのお茶づくりなど、新たな発見に参加者はわくわくします。他にもメニウーがいろいろあります。秋には、木の実でクッキーづくりをします。ぜひ参加してみてください。



野鳥の声を聴き、鳥を探す参加者

ウのさえずり、遠くにはホトトギスの鳴き声も聞こえ、参加者は、自然界の営みを体感しています。癒しのひと時でもあります。

「ゆつゆつと遊べや風の子どもたち」 遊育の場 子どもの館

富士山、相模湾を望む大パノラマに心癒されて、日々伝承あそび(折り紙・お手玉・こま・あやとり・けん玉・わらべ歌・和太鼓)など、さまざまな行事を開催しています。

子どもが自ら遊ぶことで心が育つという主旨は、平成5年の開館以来引き継がれ、今に至っています。また、子どもの館は、地域の方々の支えで活動しています。

- ・お手玉 尾崎絹代さん
- ・こま 遠藤裕夫さん
- ・夏休みの「習字」「子どもまつり」 民生児童委員の皆さま
- ・折り紙、和太鼓 教室を卒業した子どもが先生です。

●折り紙教室

創立以来、折り紙教室の指導者は、小澤進先生です。館内には連鶴などの作品が展示されています。小澤先生のご指導を受け、通常は館員による「今月の折り紙」を月末の日曜日に開催しています。昨年は、「子どもの先生」・相田育海さん(松田小6年生)が誕生しました。「妖怪の折り紙」講座や「子どもまつり」では、相田さんが先生になって教えました。



「妖怪折り紙講座」で指導する相田育海さん

●伝承文化「和太鼓」教室

子どもの館初代館長の尾崎さんは、特別支援教育に携わってこられた経験を生かし、「太鼓」を館の活動に取り入れました。

「口ずさむ・手を動かす・全身でリズムを感じる」という一連の動作が一つに融合することに着目し、「あしがら太鼓」を立ち上げ、障がいのある人もない人もみんな一つの音を響かせる活動を目指しました。

現在は、「あしがら太鼓」の協力を得て、月2回「和太鼓教室」を開催しています。

幼児から大人まで参加して町の文化祭で発表しています。今年、10月22日(土)です。小学生は、松田中学校3年生の高木七海さんから教えていただきます。



和太鼓教室「道祖神太鼓」の練習

ています。また、地元「コスモス学園」の皆さんは、わらべ歌と太鼓を楽しみに来館されます。なかなか音が合わなかった人も、人の音を聞くことで次第に音が響き合いました。共に響き合う子どもの館でありたいです。

●子どもの館は、来館多数

学校の遠足などによる来館数は、述べ662校です。伝承あそびと、牛乳パック工作を行っています。皆さんも遊びに来てください。

当町内の「青山街道」の命名について(その一)

「青山街道」とは、一般的に厚木以東ではそう呼ばれていることが多く、この町の地で「神山・清水から町屋」の約1.7キロメートルの道筋を突如「青山街道」と呼ばれるのは何故でしょうか。この道のウォーキング参加者や『歩いてみよう松田の歴史』の読者等からの疑問・質問並びに若い人からは「何となく誇らしい道の名である(御江戸大絵図)」

松田の文化財探訪

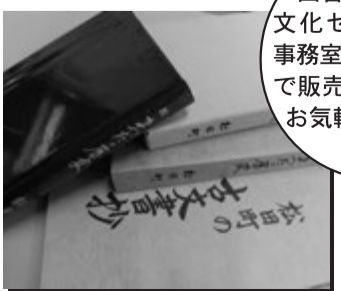


《矢倉沢往還10》文化財保護委員 草門

「とやう感想をいただいています。従って、「魅惑?の青山街道」の呼称について、今回は史実(点)をもとに線として、「命名の由来について個人的推論」を述べさせていただきます。

当郷土史家・井上 清氏の記された「松田の大名行列」によりまず、寒田神社の先代の御神輿は、

松田町の歴史に関する本の購入



図書館窓口と文化センター1階事務室(生涯学習係)で販売しています。お気軽にどうぞ。



寛政十年(一七九八)六月に新調・購入先は江戸京橋の南伝馬町三丁目と、神輿の台裏に漆で朱書きされている様です。また、神輿の引き取りには、当時の屈強な者が担いで来たと言います。(筆者としては、国府津辺りまでの船の搬送ではないかと思っていました)では、その道筋はどの様なものかと言ふことで、「御江戸大絵図」(写真を見て推測いたします)と、南伝馬町三丁目は、現在の中央区・京橋三丁目辺りです。そして、赤坂御門はお城を挟みほぼ真西で、約三キロメートルです。お城(皇居)の南側の内堀通り、まさに我が国の中枢・永田町附近を通り、赤坂御門からの青山街道(この辺りでは、現在、大道・厚木道等の観光用道標あり)に合流し、矢倉沢往還の村々の継立場を通り、神山(町屋)寒田神社までの、道程約九〇キロメートルを肅々と担いできたものと思えます。御神輿(神様)を担いできた若衆が、華やかな江戸の「青山街道」との繋がりを実感すると共に、後世に言い伝えたいと思ったのでしよう。次回、今少し内容を具体的にフォローさせていただきます。